

## 調査・事例収集の報告 人の移動に関する実践事例調査

### (1) 調査の概要

- ・ 地域への人の移動の実践事例の収集と、そのプロセスの分析を行い、今後、地域への移動を行う人への参考として取りまとめを行った。
- ・ 具体的には、最近の傾向として、地域に移動して、その地域の活性化に貢献する人や二地域居住などの新しい移動の形態が見られるため、各種文献調査及びヒアリング等により、地域活性化貢献型の地域への移動や、二地域居住の実践事例を中心に候補を抽出した。そして、各事例について、移動の実行までの経緯や、移動後の活動状況について詳細な調査を行い、そのプロセスを分析した。(うち、二地域居住者は終了)

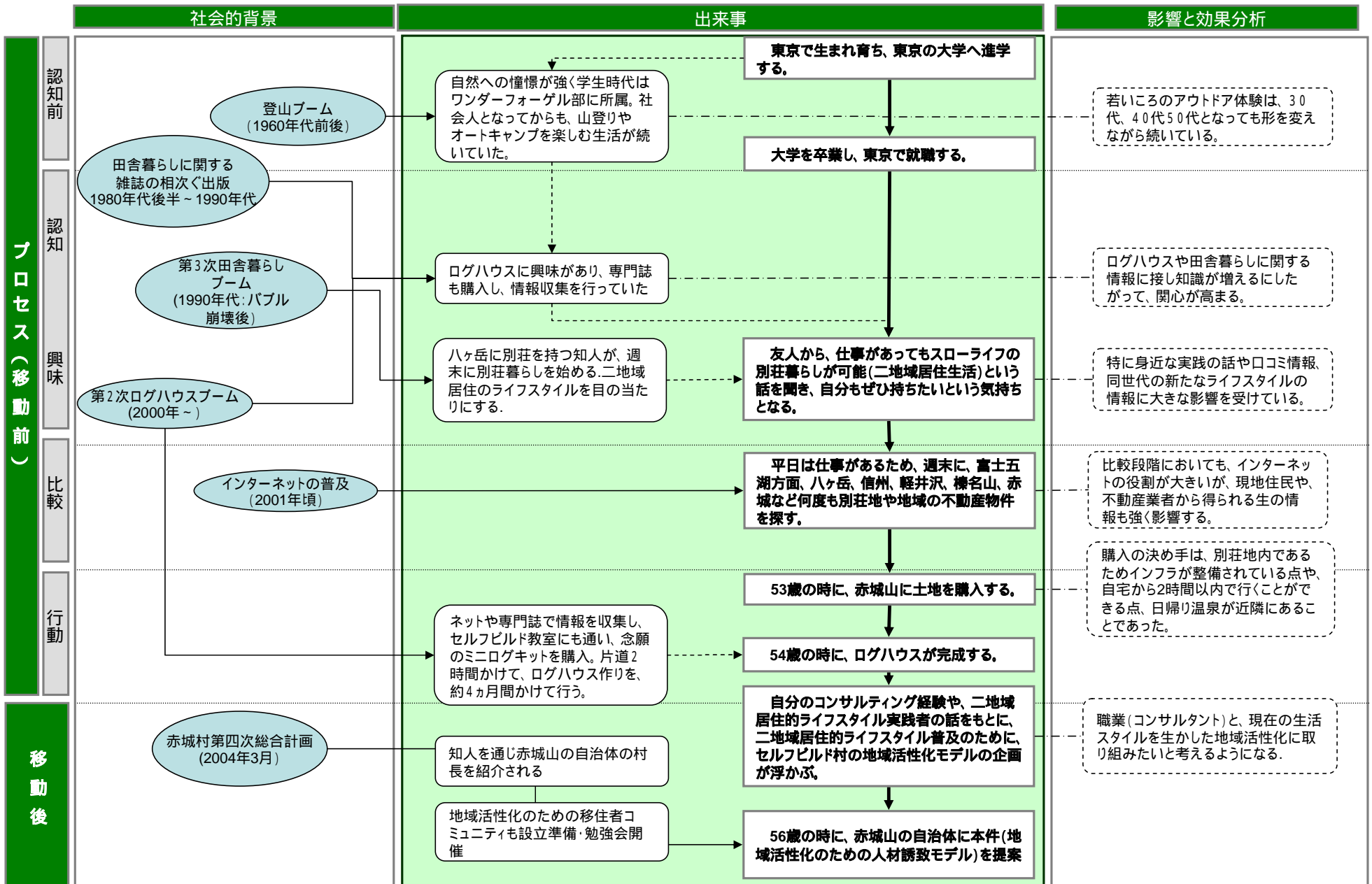
### (2) 結果のポイント

- ・ 移住前に田舎暮らしを体験したことがあり、田舎暮らしに対して良い印象を持っている。
- ・ 田舎暮らしは、個人的な事情(親との同居等)による他、田舎でなければ得ることができないライフスタイル(例:自然の中での生活)を得る目的が見られる。
- ・ 移住先の住居の情報は、不動産関連の雑誌の他、現地の不動産業者や現地住民から収集を行っている。
- ・ 移住前に移住先の住民等との交流があり、現地の生の情報がある程度得てから、移住を行っている。
- ・ 移住前に培ってきた自身の仕事上のスキルや知識が、移住後に地域活性化につながるケースが見られる。
- ・ 二地域居住者は、平日は仕事を行い、週末に田舎暮らしを行うというパターンである。
- ・ 定住者は、家族とともに、移動を行っている。

基本情報

性別: 男性(56歳)  
 職業: 会社員  
 現住所(出身地): 東京都練馬区(同左)  
 二地域居住先: 群馬県赤城

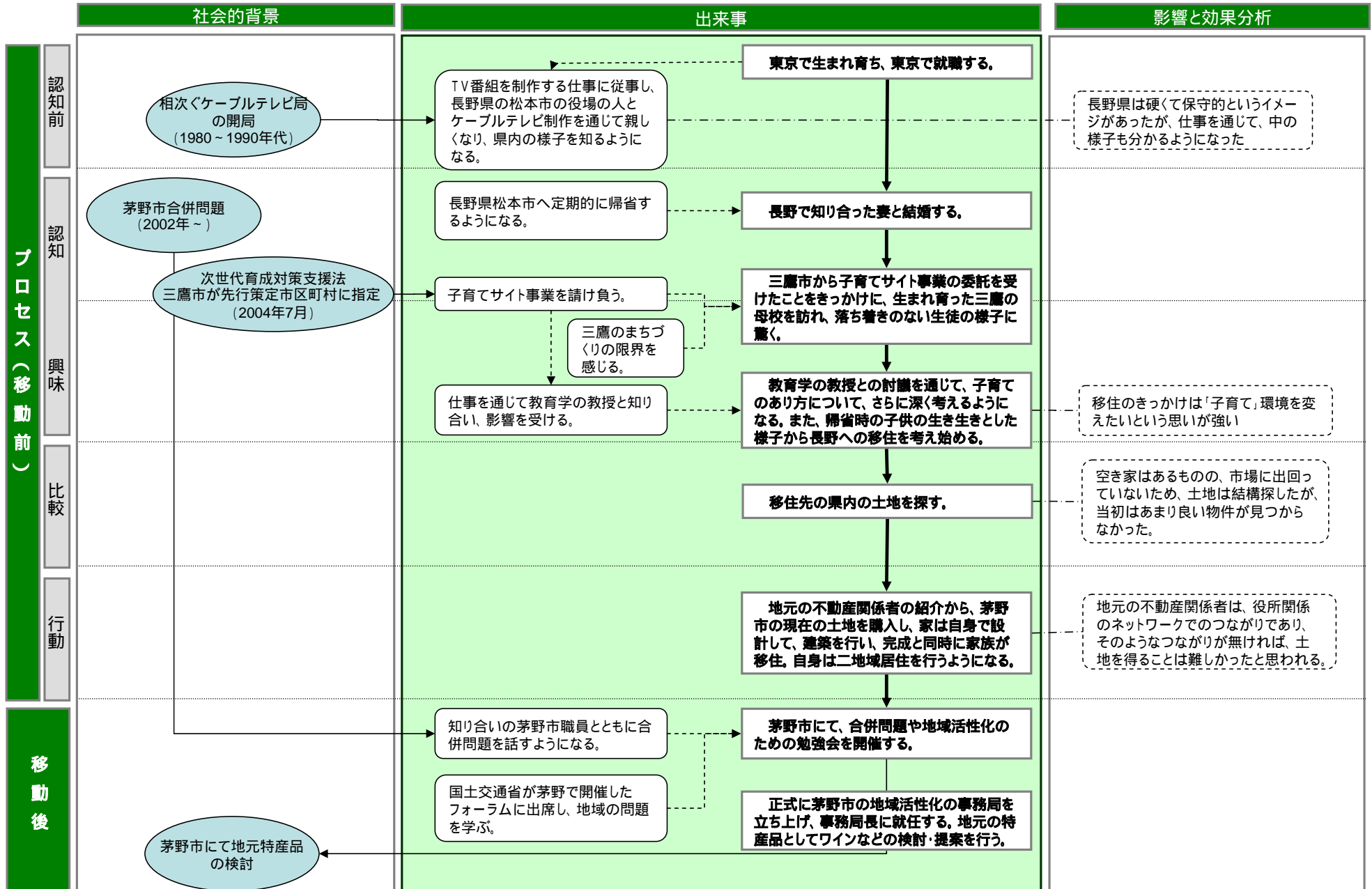
経緯: アウトドアに興味があり、ログハウスや田舎暮らしの情報収集を行う。平日は、会社勤務のため、週末や休みを利用し、群馬県赤城山に購入した土地に4ヶ月かけて小規模なログハウスを自分で建てる。現在は、コンサルティングの知識を活かし、赤城山地域活性化を行うために脱都会派による赤城地域サポーターモデル(赤城地域学、セルフビルド村、地域振興のための二地域居住・交流人材誘致、国際交流など)を村長に提案を行っている。



基本情報

性別: 男性(45歳)  
 職業: まちづくり株式会社  
 現住所(出身地): 東京都三鷹市(同左)  
 二地域居住先: 長野県茅野市

**経緯:** 三鷹市で生まれ、地元の中学・高校に通うなど、これまで地元で生活する。2年前に、長野県茅野市に自宅を設計、施工し、妻と子、自身の親も一緒に移住をする。自身は、株式会社まちづくり三鷹で平日は勤務を行っているため、単身赴任となり、2時間かけて週末に通う生活である。現在は、茅野市の地域活性化を行うための行政と民間の茅野まちづくり研究会を立ち上げ、シンポジウム、協働のまちづくり等の企画立案を行っている。



# 夫の移住に伴い、妻が二地域居住

## 基本情報

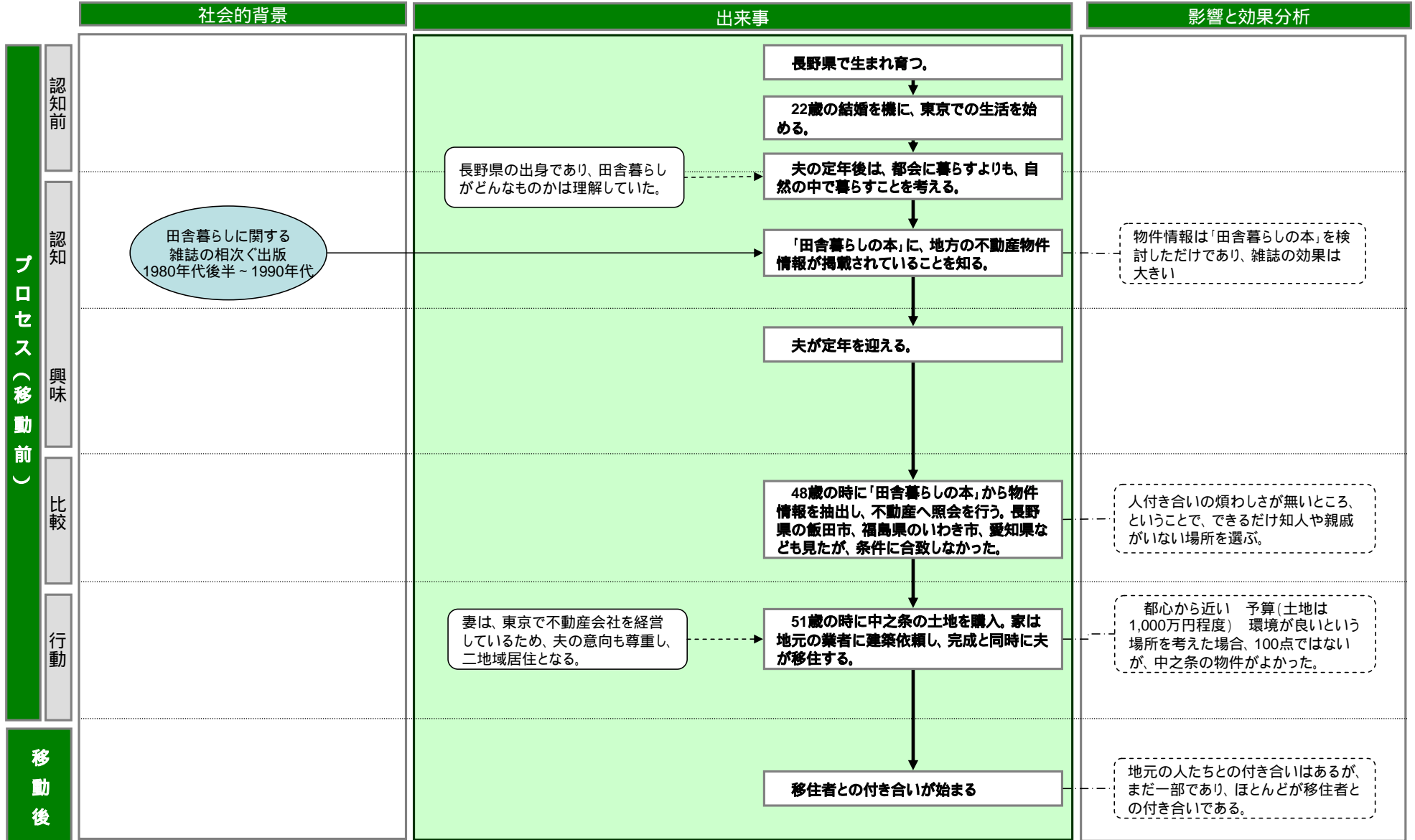
性別: 女性 (55歳)

職業: 不動産関連

現住所 (出身地): 東京都 (長野県)

二地域居住先: 群馬県中之条町

**経緯:** 1998年に中之条町の北部にある岩本地区にて山の斜面を含む土地を取得する。最初は敷地内にコンテナハウスを建て、寝泊りをしていたが、2001年に定住のための住まいを建築し、夫のみが単独移住をする。妻は東京で不動産関係の仕事をしているため、平日は勤務し、毎週末夫婦の時間を過ごすために、東京-群馬の二地域居住生活を送っている。現在は、移住者同士の交流も生まれ、横のつながりができており、このようなライフスタイルを楽しんでいる。



基本情報

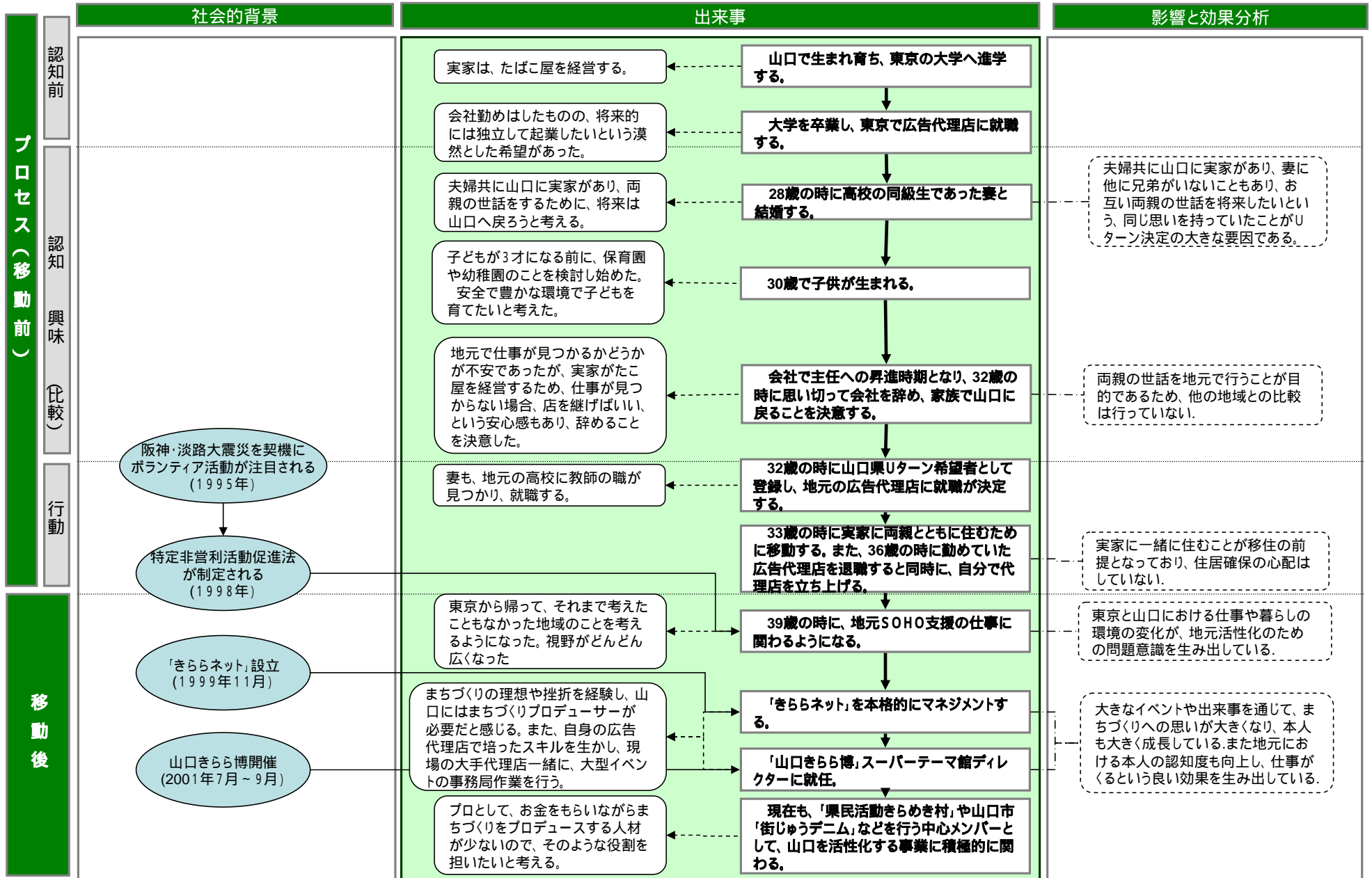
性別: 男性(43歳)

職業: 会社経営

現住所(出身地): 山口県徳山市

移住前住所: 埼玉県さいたま市

経緯: 山口県で生まれ、地元の高校を卒業した後に東京の大学へ進み、そのまま東京の広告代理店に勤める。退職後、徳山市の広告代理店に転職、その後地元を活性化する企画・制作事務所「ヒットクリエイティブオフィス」を設立する。その後「山口きらら博」の県民参加を推進、サポートするボランティア組織「きららネット」事務局長に就任。きらら博終了後も、「やまぐちのSOHOを応援する会」の理事に就任するなど、山口を活性化するサポートを全般的に行っている。





「山口きらら博」



スーパーテーマ館「山口元気伝説」のショーの様子

### 「きららネット」について

当初の立ち上げ目的と経緯:きらら博に県民が主体的に関わる方法を検討するための会議である「県民参加会議」において、県民自らが集まって運営する組織が必要との決定があり、その「県民参加会議」に参加したメンバーが中心となって立ち上げた組織。

参加メンバー:「県民参加会議」の参加メンバーは一般公募で、個人や青年海外協力隊などのボランティア経験者、社会福祉協議会の代表者、地域で自然保護をしている活動家など15名と、オブザーバー参加者として会議に参加した県民であった。

参加団体:当初は手を上げた個人20名くらいが発起人となり、新しい組織が出来た、という形であったが、その後きらら博開催時には、きららネット正会員200人、事務局は10人くらい、ボランティア参加は、会場おもてなしの参加だけで延べ17000名の参加となった。その他にも、持ち込み企画の主催者としてなど、さまざまなケースで、きららネットを介して参加した人もいるため、全部で2万人位の参加と推定される。

### 「山口きらら博」について

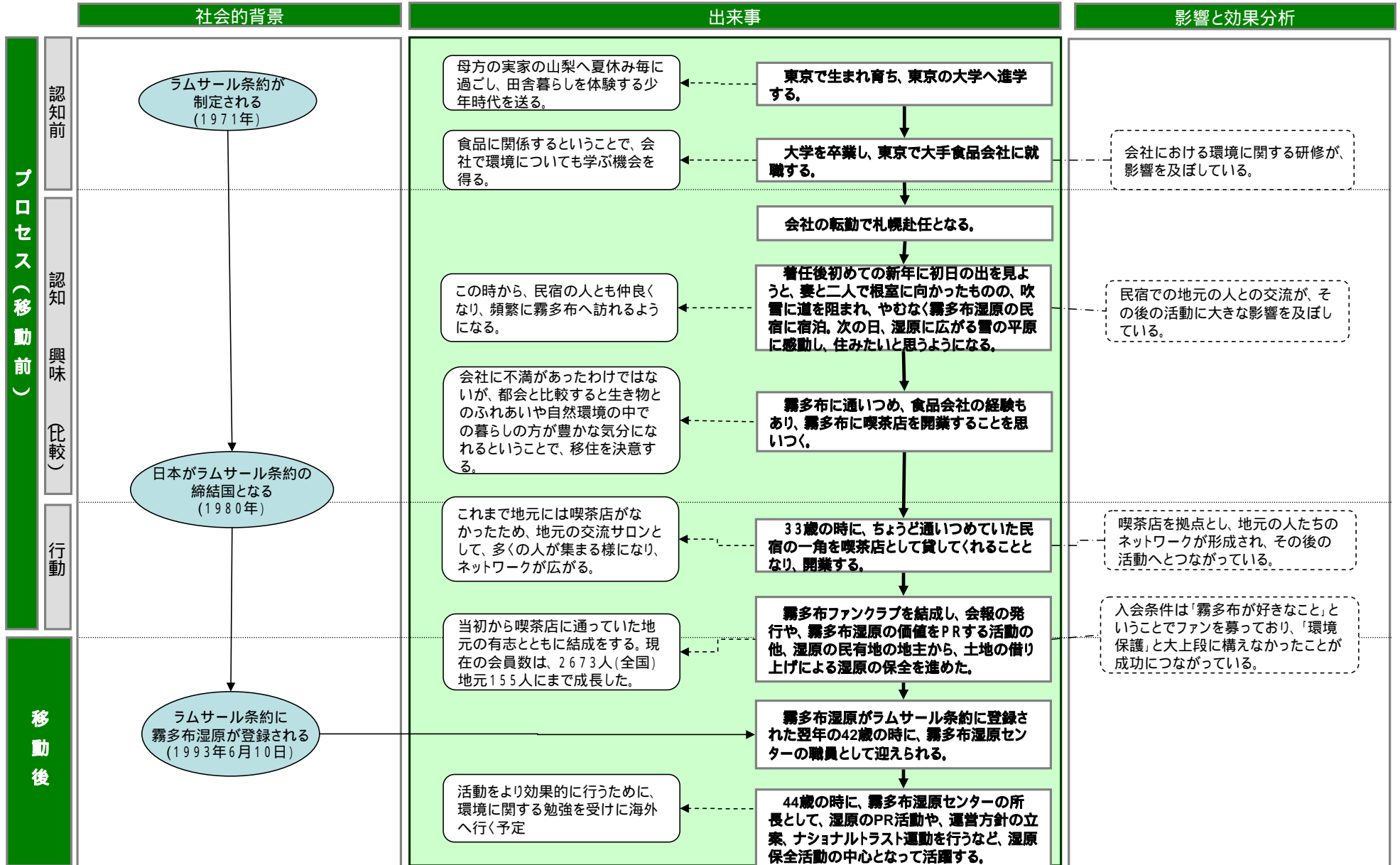
山口きらら博(やまぐちきららはく):山口県山口市(当時吉敷郡阿知須町)きらら浜で2001年7月14日から9月30日までの79日間開催された地方博覧会である。正式名称は「21世紀未来博覧会」、通称「きらら博」と呼ばれている。ボランティアスタッフをはじめとする県民総参加による協働の成果もあって、結果的に総入場者数は79日間で251万4178人という成果を収めた。これは山口県の人口(約150万人)を大きく上回るものである。

スーパーテーマ館「山口元気伝説」:山本寛斎がプロデュースしたショーであり、平日1日2回、休日3回のショーで、1回あたり、ボランティア出演者が100~150名登場する。これを79日間、連続して公演を行った。出演者だけではなく、裏方などでボランティアが大活躍するものであり、ボランティア出演者や裏方達の一生懸命な姿を見て観客が感動し、その感動している観客の姿を見て、ボランティアがまた頑張る、という好循環を生み、大変人気が出た。

基本情報

性別: 男性(65歳)  
 職業: 霧多布湿原センター所長  
 現住所: 北海道厚岸郡  
 移住前住所: 北海道札幌市

経緯: 東京下町で生まれ育ったが、会社の転勤で札幌赴任となる。着任後、霧多布湿原に魅了され、まず同湿原にて喫茶店経営を始める。その後地元の若者6人と霧多布ファンクラブを結成。その後霧多布湿原は、1993年ラムサール条約に登録され、同年設立された霧多布湿原センターの職員として迎えられ、その後所長となり、さらなる自然保護に向けた活動の中核を担う。



基本情報

性別: 男性(63歳)  
 職業: 歯科医  
 現住所: 大分県佐伯市  
 移住前住所: 福岡県福岡市

経緯: 福岡市中心部で歯科医院を開業していたが、還暦を前に、学生時代からの夢だった地域医療に従事すべく、医院を息子に託し3年前に妻とともに木立地区に小さな歯科医院を開業。診療日は週4日であり、学会などで月に数回東京や福岡市へ出かけることはあるものの、オフの日は1日中釣りをしている。現在は、高齢化の進むこの地域のお年寄りから感謝され、求めていた本物の医療に出会ったとの思いを強くしている。

